

「若者は検査せず診断可能に」

専門家が提言案 医療逼迫避ける狙い

新型コロナウイルス対策
政府に助言する専門家の有志は20日、感染者が今後さらに急増した場合に、基礎疾患のない若者らは検査をしなくても症状のみで診

断できるようとするとした
政府への提言案をまとめた。医療の逼迫を避ける苦肉の策を示す一方、従来のような強い行動制限は緩めをしながらも方向性を打ち出した。

- ・外出自粛などの「人流抑制」ではなく、感染リスクの高い場面での「人数制限」を
- ・飲み会はいつも会う人と少人数、短時間で。大人数のパーティや会食は避け、実施するなら当日の抗原検査や人数制限を
- ・コンサート、スポーツ観戦はリスクが低い。従来通り席の距離を空け、静かな観戦を
- ・県をまたぐ移動の制限は必要ない
- ・感染者が急増した場合、若年層の多くは軽症で自宅療養で軽快するため、検査せず臨床症状のみでの診断も検討を
- ・さらに急拡大すれば、患者の状態に応じた受診や診断のあり方も検討を

提言案は政府の新型コロナ対策分科会の尾身茂会長ら20人以上が名を連ねた。この日あつた厚生労働省の専門家組織の会合で示された。それによると、オミクロン株はデルタ株などと比べて感染力が高い一方、基礎疾患などがない50歳未満は軽症が多いが、50歳未満は軽症が多く自宅療養で症状が改善していると指摘。この特性から、若年層を中心には高齢者が急増してPCRなどの検査や外来が逼迫する人が増えることを懸念

した。これまでには検査で陽性を確認し、医師が感染を判断していたが、若い人は検査をせずに臨床症状だけで新型コロナだと診断できるよう変更を求めた。重症化やすい人が優先的に検査や治療を受けられるようにす

る。さらに感染拡大すれば受診のあり方の再検討を求める。ただ提言案には、症状だけはどう診断するかは明記されていない。

提言案では、オミクロン株流行下では医療逼迫や社会機能不全を起こさない程度に感染者数を抑えることが求められていると指摘。効果的な感染対策として、従来のような一律の外出自粛などではなく、感染リスクの高い場面や場所での「人数制限」が有効だと指摘した。(市野塊、枝松樹)

した。